

2022年5月25日、一般社団法人日本自動認識システム協会 (JAISA) の第12期定時社員総会が開催され、多くの会員企業がオンラインで出席するなか、2件の議案が承認されました。



会報JAISA夏号 CONTENTS

〈特集〉 第12期定時社員総会

総会概要 P1

2021年度事業報告 P2~3

2021年度 新会員企業のご紹介 P4~7

第24回 自動認識総合展 ご案内 P8

2021年 自動認識機器の市場動向調査 P9

2022年度 自動認識技術者資格認定講習・試験 ご案内 P10

未来のAUTO-IDプロジェクト / AUTO-ID MeetUP P11~12

自動認識の基礎知識セミナー ご案内 P13

第20回 自動認識総合展 大阪 ご案内 P14



第12期定時社員総会 (P1)



AUTO-ID MeetUP (P12)

第12期定時社員総会を開催

2022年5月25日、一般社団法人日本自動認識システム協会（JAISA）第12期定時社員総会が、JAISA事務所（東京都千代田区）で開催されました。本総会はコロナ禍の影響で昨年同様、議決権行使書による議決権行使を呼び掛け、オンラインで多くの会員企業が出席、当日は2件の議案が承認されました。

本総会の議案は、第1号議案として定款第44条第2項に基づく2021年度事業報告および収支決算について、第2号議案として定款第24条第1項に基づく新任理事の選任について。また席上、2022年度事業計画と収支予算が報告されました。そして総会後に行われた第1回通常理事会において、JAISAの新体制がスタートしました。

この度退任された理事は有馬史郎氏で、長年にわたり自動認識市場の発展に貢献されました。新たに選任された熊本正宏氏と鈴木圭氏は今後、JAISAの運営に参加していただきます。

本誌では、第1号議案として承認された2021年度の事業報告に基づき、一部を抜粋して掲載します。



第12期定時社員総会会場

一般社団法人日本自動認識システム協会 理事・監事		
役職	氏名(敬称略)	会社名
代表理事会長	小瀬 龍太郎	サトーホールディングス株式会社 代表取締役社長 兼 CEO
代表理事副会長	堀川 恵一	株式会社リコー 執行職 IMS事業部 事業部長
副会長	佐藤 誠	東芝テック株式会社 リテール・ソリューション事業本部 商品企画開発統括部 SCMソリューション商品部 担当部長
専務理事(常勤)	古村 浩志	一般社団法人日本自動認識システム協会
常務理事(常勤)	武藤 健	一般社団法人日本自動認識システム協会
理事	荒木 勉	上智大学 名誉教授
理事	池上 隆介	株式会社日立製作所 サービス&プラットフォームビジネスユニット サービスプラットフォーム事業本部 マネージドサービス事業部 セキュリティサービス本部 担当部長
理事	市野 将嗣	電気通信大学 大学院情報理工学研究所 准教授
理事	岡田 幸紀	アイメックス株式会社 代表取締役
理事(新任)	熊本 正宏	株式会社デンソーウェーブ CNビジネス開発室 室長
理事	斎藤 英雄	慶應義塾大学 理工学部 教授
理事	相良 隆義	株式会社デンソーウェーブ 代表取締役社長
理事(新任)	鈴木 圭	NECプラットフォームズ株式会社 執行役員
理事	西田 浩一	サトーホールディングス株式会社 顧問
理事	西田 義則	凸版印刷株式会社 事業開発本部 事業開発統括センター 副センター長
理事	春山 安成	株式会社マーストーンソリューション 取締役会長
理事	宝代 彰	株式会社フェニックス 代表取締役社長
理事	松森 邦彦	富士通フロンテック株式会社 シニアフェロー
理事	森田 昌洋	オカバマキングシステム株式会社 代表取締役社長
監事	小森谷 豊	税理士法人レインボー 代表社員 公認会計士・税理士
監事	平本 純也	アイニックス株式会社 代表取締役社長

(役員役員を除く50音順)



写真左から、堀川副会長、小瀬会長、佐藤副会長、古村専務理事

事業運営の総括

2021年も新型コロナウイルス感染症による影響を受け続けた1年であった。国内経済は一昨年から続く新型コロナウイルス感染症の打撃から徐々に回復に向かいつつあるが、対面型サービス業をはじめ回復が待たれる業種も多く業種間のばらつきも目立った。さらに国内外では経済回復に伴う急激な需要増により、エネルギーや原材料不足の影響が顕著となった。そして年末からの新変異株による感染の再拡大により国内外ともに厳しい状況となった。

一方、新型コロナウイルス鎮静化が見えない「ウィズコロナ」の状況下において芽生えた、テレワークやeコマース、キャッシュレス決済などの新しい生活様式が定着し、今までにない需要を生み出し、非接触化、無人化、新たな働き方などへの取り組みが一層求められている。

自動認識技術はこれまでも、非接触化、省人化、そしてAI、ロボット、自動走行など新技術との融合によってデジタル化を促進し、経済のインフラ基盤を支えてきた。「持続可能な開発目標(SDGs)」として掲げられた17Goalsには、その実現に向けて自動認識技術の活用も期待されている。今後、DX(デジタルトランスフォーメーション)により、ビジネス構造の大きな変革にあたり、自動認識技術はDXの基盤技術の一つとしてその変革を支え、そして進化させる可能性を持つものと確信している。

当協会でもコロナ禍の影響を大きく受け、昨年度に引き続き総会、賀詞交歓会をオンライン開催とし、部会、セミナー等のオンライン/オフライン併用による開催や、講習/試験等のソーシャルディスタンス確保のための定員減を継続するなど、安心、安全に配慮しつつ事業の推進をはかり、自動認識技術の普及啓発、調査研究、標準化、会員企業へのサポートに取り組んだ。

2021年度当協会では、(1)自動認識の普及発展のため会員サービスの向上、(2)ウィズコロナ時代の堅実な事業運営、を活動方針として自動認識業界の産業振興に貢献すべく取り組んだ。協会活動も「新たな日常」への対応を定着させ、感染状況に応じた活動内容、手法の見直しを行い、事業活動の停滞、サービスレベルの低下を最低限に抑えるべく取り組んだ。

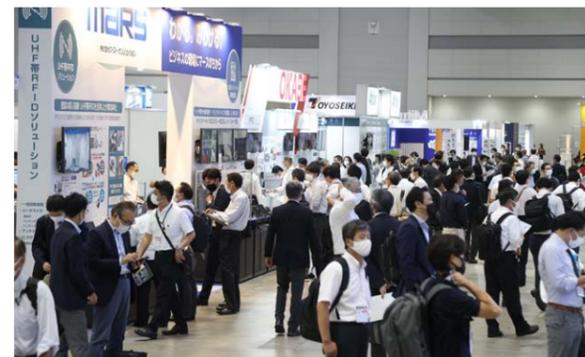
事業報告

1. 広報及び普及啓発事業

(1) 展示会

① 第23回自動認識総合展の開催

2021年10月6日~10月8日の3日間、東京ビッグサイトで「第23回自動認識総合展」を開催。自動認識技術とソリューションの活用で多くのイノベーションを作り出すきっかけを提供し、本展示会が日本で唯一の自動認識関連の展示会であることを強く印象付けた。



第23回 自動認識総合展(東京ビッグサイト)

② 第19回自動認識総合展・大阪の開催

2022年2月24日~2月25日の2日間、大阪市マイルドームおおさかで「第19回自動認識総合展 大阪」を開催し、関西地域における自動認識技術・ソリューションの普及促進に努めた。

(2) セミナー

① 展示会セミナー

第23回自動認識総合展、第19回自動認識総合展大阪において「自動認識セミナー」を同時開催した。最近のトレンドや市場の変化を捉え、よりユーズ視点に立った自動認識技術ソリューションを各分野のテーマで、流通・物流現場、医療現場、安全と効率化、ロボットの活用等、自動認識技術を活用した事例等を紹介した。

② 自動認識の基礎知識セミナー

自動認識の基礎知識を広く学んでいただくことを目的として、2018年度より開催している「自動認識の基礎知識セミナー」を引き続き開催した。当協会会議室を会場とした集合形式と、各企業に協会講師を派遣する講師派遣の形態で実施し、自動認識技術の普及啓発に努めた。

③ JAISAフォーラム

当協会の部会・プロジェクト活動や研究開発活動内容と成果を周知し、活用を促すことを目的として「JAISAフォーラム2021」を第23回自動認識総合展で実施、オンラインでの参加も可能とし、RFIDをはじめ、バーコード、バイオメトリクス、医療自動認識、画像認識の講演を行った。

④ JAISAビジネスセミナー

新たに会員企業向けに幅広く情報提供を図る場として「JAISAビジネスセミナー」を企画し、SDGs/ESG投資、画像認識をテーマに2回開催した。自動認識ビジネス及び企業経営に関わる旬なテーマを取り上げ、会員のビジネス推進に有意義な内容を提供した。

(3) 自動認識システム大賞

自動認識関連の技術やシステムを用いた先端的且つ、その効果が極めて顕著な作品を公募し、表彰する「第23回自動認識システム大賞」を実施し、業界有識者の審査により、大賞1件、優秀賞2件、産経新聞社賞1件を選定し表彰した。本年度は展示会場内のセミナー会場で表彰式を実施したほか、受賞各社より受賞作品のプレゼンを行った。

【第23回 自動認識システム大賞 受賞作品】

	受賞作品タイトル	応募企業
大賞	温度ロガー機能付きデュアルRFIDラベルによる農産物の定温物流管理	株式会社サトー 沖縄セルラーアグリ&マルシェ株式会社
優秀賞	日本酒の正規品流通経路管理のための、二次元コードとRFIDハイブリッド活用	高桑美術印刷株式会社 黒龍酒造株式会社 株式会社サトー
優秀賞	Deep Learningを使った物流仕分けソータ上の単品識別システム	ジック株式会社
産経新聞社賞	UHF帯バッテリーレス電子ペーパータグを活用した工程間搬送システム	株式会社デンソーウェーブ 富士通セミコンダクターメモリアソリューション株式会社



第23回 自動認識システム大賞受賞者

(4) 未来のAUTO-IDプロジェクト

自動認識技術に関係する事業者に対して、自動認識技術の活用具現化を体感できる展示を提供することで、自動認識システムの認知度を高め、自動認識市場の発展・拡大に寄与することを目的として活動を継続した。

本年度は、前半にはSDGsをテーマとして、学識経験者、会員企業の実行委員会による「未来をつなぐAUTO-ID～SDGsを支える自動認識」を第23回自動認識総合展で展示した。後半は新たな企画委員会を発足し、プロジェクト目標実現のための新事業企画を4つのテーマでグループ活動を行ない企画発表会を行った。

2. 資格認定事業

自動認識技術者の育成・確保を図ると共に、その技術を広く社会に知らしめていくことを目的とする自動認識技術者認定登録を行うため、講習および試験を実施した。また、本年度は基本試験を始めて名古屋で実施した。これにより、基本技術者資格認定者は2,376名、RFID専門技術者資格認定者は240名、バーコード専門技術者資格認定者は35名(前回開催時まで)となった。

3. 国内市場動向調査

国内唯一の自動認識産業団体として、自動認識市場の市場動向の把握と、会員企業への情報発信を行うため、出荷実績調査を実施した。2021年1月～12月までの1年間に国内市場に出荷された各種自動認識機器、消耗品(RFIDタグ等)をアンケート形式で調査、分析し2021年における市場規模を算出。併せて2022年の市場動向についての数値予測を行った。

(調査結果は本誌P9に掲載)

4. 規格の立案および標準化の推進事業

(1) ISO/TC122/WG12 標準化推進

ISO/TC122(包装)/WG12(サプライチェーンへの物流技術の適用)の国内対策委員会としてISO/TC122/WG12国内委員会を引き続き開催し、バーコード、二次元シンボル、RFID等の自動認識技術を物流に活用するための関連規格の審議を行うと共に、ISO/TC122の国内審議団体である公益社団法人日本包装技術協会と連携・協力し、国際標準化活動を行った。

(2) ISO/IEC JTC1/SC31標準化推進

ISO/IEC JTC1/SC31(自動認識及びデータ取得技術)/WG1(データキャリア)、WG2(データストラクチャ)、WG4(RFID)、WG8(自動認識規格のアプリケーション)の国際標準化について一般社団法人電子情報技術産業協会(JEITA)との連携・協力活動を行った。

(3) ISO/IEC JTC1/SC37標準化推進

ISO/IEC JTC1/SC37(バイOMETRICS)に参加した。

5. 部会・プロジェクト活動

部会・プロジェクトでは、会員第一を念頭に、4部会2プロジェクトの活動を通して会員に事業に役立つ付加価値を提供するため、仲間作りの場の提供、業界最新情報や関連省庁の最新情報の提供や普及啓発活動並びに市場拡大のために解決すべき業界共通課題の発見及びその解決への取り組みの場として活動した。

(1) 業界情報提供と会員相互交流・親睦

- ① 講演会・セミナー
- ② 現地視察研修会

(2) 市場課題の解決に向けた活動

- ① 課題抽出への取り組み
- ② 業界課題解決に向けた活動

(3) 技術分野の横断

- ① 部会・プロジェクト連絡会
- ② 合同部会

(4) 一般ユーザへの普及啓発

- ① 市場への情報提供
- ② 業界啓発のための活動
- ③ JIS X 0527普及セミナー
(自動認識及びデータ取得技術に関する規格:バーコードプリンタ及びバーコードリーダーの性能評価仕様)
- ④ バーコード関連カタログ用語集の改訂

6. 研究開発

市場創造や産業育成のための課題や阻害要因を解決するため、会員企業をはじめ、関係組織・団体等とも連携して活動した。また、自動認識市場の活性化による会員企業のビジネス拡大に貢献するため、事業の成果を部会を通じて、一般に共有した。

(1) バーコード関連

- ① ISO/IEC 24458 (JIS X 0527の国際標準化)が制定された

(2) RFID関連

- ① 物流における自動認識技術(電子タグ等)利活用のためのデータ共通化に関する国際標準化
- ② RFIDタグ読取評価基準(TIPP)の検討
- ③ 「RFID技術を活用した新たなビジネスの可能性検討」における事例集作成

(3) バイOMETRICS関連

- ① 生体認証精度評価を容易とする精度評価方法に関する国際標準化

以上

2021年度にJAISAに入会いただいた新会員企業をご紹介します。現在JAISAの会員は133社(2022年6月現在)。今回ご紹介する新会員の皆様は既に部会・プロジェクト活動に参加され、自社の紹介やソリューションなどのプレゼンテーションを行っています。今後、研究開発センターの活動や展示会などで、各社の製品に触れる機会も多くなることでしょう。



JAISAは会員の皆様とともに、自動認識技術の発展と新たな生活様式を先取りしたソリューションの研究・開発に取り組んでまいります。

(入会申込順掲載)

社名	入会年月	参加する部会・プロジェクト					
		バーコード	RFID	バイOMETRICS	システム	医療自動認識	画像認識
株式会社エイポス	2021年4月		●				
旭化成株式会社	2021年4月		●				
ジック株式会社	2021年4月		●		●		
山京インテック株式会社	2021年5月	●	●		●	●	●
株式会社SGST	2021年5月	●	●	●	●	●	●
システムギア株式会社	2021年7月	●	●				
株式会社IHI	2021年7月		●				●
株式会社Uni Tag	2021年10月		●			●	

*

IHI

株式会社IHI
IHI Corporation

<https://www.ihico.jp/>

会社概要

IHIは総合重工業グループとして、資源・エネルギー、社会インフラ、産業機械、航空・宇宙の4つの事業分野を中心に新たな価値を提供しています。

1853年創設の日本初の近代的造船所「石川島造船所」を起源とするIHIは、造船で培った技術をもとに陸上機械、橋梁、プラント、航空エンジンなどに事業を拡大し、日本の近代化に大きな役割を果たしました。

IHIは「技術をもって社会の発展に貢献する」という経営理念のもと、今後もものづくり技術を中核とするエンジニアリング力で世界的なエネルギー需要の増加、都市化と産業化、移動・輸送の効率化などの社会課題の解決に貢献していきます。

- 会社名：株式会社IHI
- 創業：1853年12月
- 設立：1889年1月
- 本社：東京都江東区豊洲3-1-1

事業および製品情報

産業システム・汎用機械

- ・圧縮機
- ・給油装置
- ・車両用過給機
- ・運輸機器
- ・製鉄用工業
- ・熱・表面装置
- ・船用機械
- ・汎用ボイラ
- ・分離機
- ・最先端ターボ機械
- ・パーキングシステム
- ・物流システム
- ・ファクトリーソリューション
- ・製紙・パルプ機械
- ・農業機械
- ・生活関連機器



本社ビル

物流システム

社会基盤・海洋

- ・橋梁
- ・鉄構
- ・シールド
- ・海洋構造物
- ・セキュリティ
- ・水門
- ・コンクリート建材
- ・交通システム
- ・都市開発
- ・環境計画

航空・宇宙・エンジン

- ・航空エンジン
- ・航空管制システム
- ・ロケットシステム・宇宙利用

資源・エネルギー・環境

- ・カーボンソリューション
- ・ガスタービン、ディーゼルエンジン、ガスエンジン
- ・LNG受入基地・貯蔵タンク
- ・プラント構成機器
- ・プロセスプラント
- ・原子力

*システムギア株式会社様は次号(会報JAISA秋号)でご紹介いたします。

AsahiKASEI

旭化成株式会社

Asahi Kasei Corporation

<https://www.asahi-kasei.com/jp/>

グループ理念

“いのち”と“くらし”を想い続ける。
一世紀前から変わらない
旭化成の理念。

旭化成は人類の幸福への願いを胸に、「人びとがよりよい生活を実現できるよう、最も良い生活資材を、豊富に低価格で提供すること」を目指して創業されました。それから約一世紀、時代環境によって社会が求めるものは変わりましたが英知でこれに応えてきました。社会の変化を先取りして挑戦すること、そして自らも変化していくこと、それが創業以来変わることのない旭化成のあり方です。

会社概要

- 会社名：旭化成株式会社
- 創業：1922年5月
- 設立：1931年5月
- 本社：東京都千代田区有楽町 1-1-2

事業概要

マテリアル領域

高度な技術と新たな発想で、環境にやさしく付加価値の高い素材・製品を開発し、未来の暮らしをリードします。

- 環境ソリューション事業
- モビリティ&インダストリアル事業
- ライフイノベーション事業

住宅領域

戸建て住宅「ヘーベルハウス」と軽量気泡コンクリート「ヘーベル」を中心に、人と環境にやさしい技術とサービスで、安全・安心で快適な住まい方を提案します。

- 住宅事業
- 建材事業

その他の事業

- 音声認識技術
- 深紫外LED

ヘルスケア領域

専門性のある高度な技術を進化・融合させ、社会が求める医療ニーズに応えることで、患者さんのQOL（生活の質）の向上に貢献します。

- 医薬事業
- 医療事業
- クリティカルケア事業



担当窓口から

今後展開していくソリューション事業の中で、RFIDを取り扱うことを視野に入れて、RFIDの技術動向や最新情報を身に付けたく入会いたしました。勉強させて頂ければ幸いです。

SGST

Global Air Solutions Incubator

株式会社SGST

SGST Co.,Ltd.

<https://sgst.ai/index.html>

会社概要

10年先へのイノベーションカンパニー

ひと、モノ、インフォメーションをAIでつなぎ、人々の暮らしの利便性を向上し、生活インフラの発展を目指します。IoT、AI領域において世界の最先端ソリューションにいち早く取り組み、日本のB2B顧客に向けて素早く提案するシステムインテグレーターです。ラビットプロトタイプングによるアジャイル型開発技法で、高速デリバリーに優位性を発揮します。



- 会社名：株式会社SGST
- 設立：2008年4月
- 本社：東京都港区虎ノ門4-1-1

事業および製品概要

ロボティクス

- サービスロボット
- 光触媒空間除菌ロボット
- 案内ロボット
- 紫外線照射ロボット



スマートロッカー

バーコード、QRコードやRFID、顔認証で、迅速・簡単に荷物を受け取ることができます。



クラウド型Puvio Ai電子黒板

- ワイヤレス プロジェクション
- マルチ書き込み
- 指紋ロック
- ビデオ会議
- ファイル管理



担当窓口から

我々は、「10年先のイノベーション」を見据え、さまざまなライフシーンの中AIとIoTで社会に貢献できるように日々製品とサービスの開発に取り組んでおり、いかに未来へ繋げることを常に考え、グループ社員一同で日々を精進し、挑戦し続けたいと思います。

A-POS

株式会社エイポス

A-POS Co.,Ltd.

<https://www.a-pos.co.jp/>

会社概要

株式会社エイポスは1988年の創業以来、グローバルにビジネスを展開してきました。事業内容は各種プリンター、RFID自動エンコードマシン、画像検品装置、自動計測システム等の設計、開発、製造、販売。セキュリティシステム、各種RFIDタグの製品企画、販売などです。

セキュリティシステムのご紹介

偽造防止セキュリティシステム

CertiEye Code
サーティアイコード

お客様がお持ちのスマートフォンで、商品が正規品か偽造品かを同時に判別いただけます。

- ◆ 偽造品はスマートフォンカメラから撮影しているときにリアルタイムでアラートが表示され、リアルタイムにメーカーへ通知が送信されている偽造品は、真正品と判別（偽造品）が判別されます。
- ◆ お客様自身がその場で、商品判定できるため、ブランドのイメージアップに繋がります。
- ◆ 管理画面は、簡単にご利用いただけます。

コードの特性

- ◆ ドットマークには最先端の技術を使用し、画面上でもセキュリティが掛けられているため、コードを複製することは不可能です。
- ◆ 特許も取得した10種の技術により、複製防止のセキュリティを実現しました。
- ◆ お客様ご自身の手で、その場で、リアルタイム判定が可能です。
- ◆ 印刷（印字）ラベルもしくは、はみ出しにコードを取り付けます。
- ◆ 10ヶ国語に対応（2020年12月現在）

コードの種類【サンプル】

- ◆ Certi-Mark ラベルマーク
- ◆ Super QR Code スーパーQRコード
- ◆ Woven Label 織込み

印刷型ステガノグラフィ技術駆使したCertiEye Codeによる真贋判定システムです。スマホで読み取ったCertiEye Codeの位置をGPSにより世界地図上で確認できます。昨今のEコマース等によるサプライチェーンの激変も相まって世界中で非常に需要が高まっています。

管理者画面 運用イメージ

マップ上に指定日時の読み取り場所、読み取り結果を表示できます。正規品、エラーなどフィルターをかけて表示することも可能です。どんな商品がどの国へ多く出ているかなど、視覚的に確認できます。GPS機能を利用しているため、読み取り場所の詳細なロケーションを表示することもできます。不正な読み取り結果を追跡することもできます。

各ブランドごとに時系列で詳細な読み取り結果を表示します。管理者画面のデータは全てExcelデータへ出力できます。出力データの統計を利用してマーケティングにも活用いただけます。

ダウンロードはコチラから 登録費用なし! 月額料金なし!

CertiEye iPhone Android

SANKYO

山京インテック株式会社

Sankyo Intech Co.,Ltd.

<https://www.sankyo-it.co.jp/>

会社概要

山京インテックの「モノ創り」からお客様に感動を。

1972年の創業以来、オプトメカトロニクスをコア技術として、電子機器の設計開発・製造、機械加工、システム開発の事業を行ってまいりました。

山京インテックを創る、4つの力

- 総合力：**自社サービスをワンストップで提供。
- 対応力：**お客様からご信頼いただく、誠実な対応。
- 提案力・技術力：**お客様の目線に立った課題解決。
- 人材力：**多種多様なご要望をしっかりと形にいたします。

- 会社名：山京インテック株式会社
- 創業：1972年5月
- 設立：1980年5月
- 本社：長野県飯田市時又127

事業および製品概要

設計開発

- 生産性向上機器設計
- ロボットアーム制御設計
- Linux制御機器設計
- ラベル搬送設計、ほか



精密機械加工

- 三次元形状加工
- 多面加工
- 鏡面加工、ほか



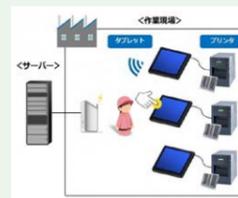
電子機器組立

- FAセンサー
- 自動認証機器、ほか



システム開発

- 自社パッケージソフト開発
- 工場・倉庫向けシステム
- ラベル発行システム、ほか



担当窓口から

ヘルスケア分野でのシステム開発や、メカと組み合わせたシステム開発等を強みとしています。RFIDや画像認識など、最新情報の入手をはじめとして、幅広く情報交換ができればと思っております。

SICK

Sensor Intelligence.

ジック株式会社

SICK K.K.

<https://www.sick.com/jp/ja>

会社概要

SICKについて

SICKは創業以来、世界のセンサ技術でリードしてきた総合センサメーカーです。

工場や物流の自動化、さらにはプロセスオートメーションに至るまで多くのセンサソリューションを提供し産業界に貢献してまいりました。

欧州においてセンサの総合メーカーの老舗として豊富な実績と評価を誇る会社です。

日本法人は35年前にスタートし、3カ所の営業拠点（東京、名古屋、神戸）と技術センターにてカスタム開発とメンテナンス体制を整備しています。

- 会社名：ジック株式会社
- 設立：1946年（ドイツ本社）
1987年（日本法人）
- 本社：東京都中野区本町 1-32-2

製品およびサービスの概要

Sensor Intelligence

SICKのセンサインテリジェンスを通じて、生産、物流、プロセスにおける自動化や、不可能を可能にするごの実現に貢献してまいります。

ICR890システム

1Dおよび2Dコードを識別し、対象物の効率的な仕分けを極めて高い搬送速度で実現します。体積や重量測定と組み合わせたり、ソフトウェアの機能拡張も可能であり、対象物やラベルに関する追加情報を、コードの読取りや画像キャプチャと並行して収集できます。



識別ソリューション製品

1次元コード用のレーザスキャナ、1次元および2次元コード用の画像ベースのコードリーダー、RFIDリーダーといった産業用リーダーを提供しています。

- 自動認識機器以外にも、光電センサや画像センサなどの産業用センサ、LiDAR、セーフティシステム、流量測定技術、粉塵測定装置等、多彩な製品をご用意しています。

ご連絡先

ジック株式会社
本社、営業部、技術サービスセンター
164-0012 東京都中野区本町1-32-2
ハーモニータワー13F
TEL.03-5309-2115 FAX.03-5309-2113
Email support@sick.jp
www.sick.com/jp/ja

UniTag

株式会社Uni Tag

UniTag Co.,Ltd.

<https://www.unitag.co.jp/>

会社概要

UNI TAG = YOU NEED TAG

Uni Tagは2020年4月、JNC株式会社とKISCO株式会社の合併で、RFタグの設計・開発を行う企業としてスタートいたしました。

JNCのRFタグ開発における卓越した技術・知識・経験とKISCOの化学・エレクトロニクス商社の専門性と提案力、グローバルなネットワーク力を結集（=Uni）することで、お客様の考える「こんなコト」「あんなコト」をRFタグのカスタマイズを通じて実現、あらゆる環境下でRFタグが「つながる!」「読める!」感動をお届けし、お客様の満足を追求していきます。

Uni TagはRFタグを通じて、社会活動の省力化や効率化に貢献し、新たな価値を創造し続ける企業を目指します。

- 会社名：株式会社Uni Tag
- 設立：2020年4月
- 本社：東京都中央区日本橋本町 4-11-2

事業および製品概要

RFID事業を通し、皆様の課題をワンストップで解消に導きます。

ユニタグの強み

- 用途に見合ったRFタグの設計開発
- ニーズにマッチした性能と信頼性
- ご利用シーンに合った読取機器の選定～調達
- 運用ソフトウェアの開発・ご提供

用途別ソリューション

- 入退出管理
- 資産管理
- 温度管理
- 位置情報管理
- トレーサビリティ



テストハンドラ

電波暗箱



ロングレンジタグ

パッケージタグ

担当窓口から

RFIDタグの設計・開発は弊社にお任せください!

AUTO-ID & COMMUNICATION EXPO
第24回 自動認識総合展

2022.9.14^{WED} - 16^{FRI} **展示** **モバイル&ウェアラブルゾーン**
画像認識ゾーン
10:00-17:00 **東京ビッグサイト 西4ホール**



A BRIGHTER FUTURE WITH AUTO-ID

未来をつなぐ **AUTO-ID**

— SDGsとDXに貢献 —



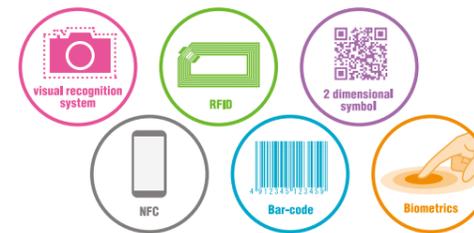
主催：一般社団法人日本自動認識システム協会

併催事業：**BT Space 自動認識セミナー**

www.autoid-expo.com



公式サイトはこちら



展示会事務局 (株)シー・エヌ・ティ

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-24-3 FORECAST神田須田町4F TEL. 03-5297-8855 FAX. 03-5294-0909 info@autoid-expo.com



自動認識機器の市場動向調査について

JAISA市場統計委員会はこのほど、自動認識機器の市場動向について調査結果を公表しました。この市場調査報告書は、自動認識システムに関連する機器やサプライ、ソフトウェアについて、2021年(令和3年)1月から12月の出荷実績と、2022年(令和4年)の出荷予測をアンケート方式で集計したものです。

本調査は、当協会の会員企業を中心に、115社からバーコードリーダー、バーコードプリンタ、バーコードサプライ、RFID、バイオメトリクス、ソフトウェアに関して回答をいただきました。

本調査の実施にあたり、ご協力をいただいた皆様に御礼申し上げます。

調査結果のポイント

2021年の自動認識機器市場の出荷金額は2,429億円で、2020年比5.2%増。2022年の自動認識機器市場の出荷予測金額は2,535億円で2021年比4.4%増。

分野別ではバーコードリーダー、バーコードサプライ、RFID、ソフトウェアの出荷金額が増加し、バーコードプリンタ、バイオメトリクスの出荷金額が減少した。

各項目の前年対比の出荷金額は、バーコードリーダーが11.3%増の312億円、バーコードプリンタが3.4%減の409億円、バーコードサプライが6.5%増の1,246億円、RFIDが1.1%増の364億円、バイオメトリクスが7.6%減の26億円、ソフトウェアが48.8%増の72億円という結果であった。

2022年自動認識市場全体の予測出荷金額は、半導体電子部品関連の不足から製品生産の遅れによる供給

減やコロナ禍の影響で、現場での導入試験の遅れから大きな需要増の期待が薄く、2021年対比4.4%増の2,535億円としている。

■バーコードリーダー

昨年に続きEC物流、食品スーパー、ホームセンター等の小売関連需要やポイント、キャッシュレス決済の需要で、出荷金額は前年対比11.3%増の312億円であった。出荷台数は前年対比26.3%増の160万台であった。

■バーコードプリンタ

製造業の需要が伸びなかったこと、半導体電子部品関連の不足により製品の生産が供給に追いつかなかったことから、出荷金額は前年対比3.4%減の409億円であった。

■バーコードサプライ

幅広い業種で回復傾向にあり、特にEC物流や食品スーパー等の小売業関連、中食、感染症対策関連での需要で、出荷金額は前年対比6.5%増の1,246億円であった。

■RFID関連

昨年から続くコロナ禍で、先送りになっている案件が多く固定型、手持型のハードの需要は減少しているが、RFタグがアパレル業界中心で需要が伸びた。出荷金額は前年対比1.1%増の364億円であった。

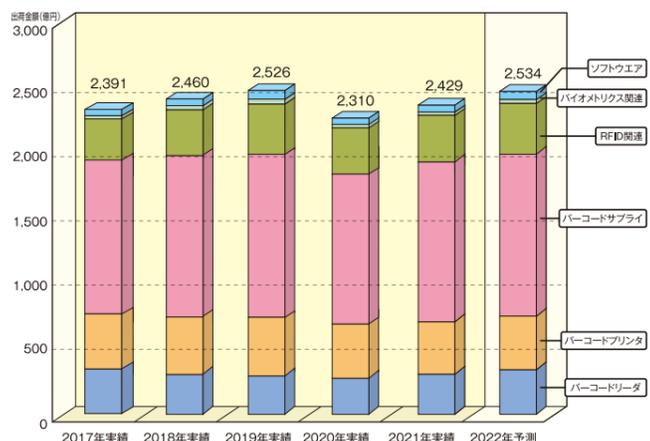
■バイオメトリクス関連

官庁関連、病院、空港、金融、オフィス等の入退室管理、勤怠管理等の案件はあったものの、半導体電子部品不足の影響でシステム等の供給ができず、出荷金額は前年対比7.6%減の26億円であった。

■ソフトウェア

EC物流での需要増で、出荷金額は前年対比48.8%増の72億円であった。バーコードパッケージソフトウェアの出荷金額は省力化、効率化を図るために導入が進み、前年対比2.2倍増の37億円であった。受託開発、カスタマイズの出荷金額は前年対比2.0%増の24億円であった。

自動認識市場出荷金額の推移



自動認識市場の国内規模推移

項目	2017年実績		2018年実績		2019年実績		2020年実績		2021年実績		2022年予測	
	回答件数	(N=122)	回答件数	(N=119)	回答件数	(N=121)	回答件数	(N=112)	回答件数	(N=115)	回答件数	(N=115)
バーコードリーダー	46	34,703	45	30,984	38	29,845	37	28,023	34	31,198	33	34,693
バーコードプリンタ	43	43,020	42	44,864	37	45,839	36	42,336	34	40,893	35	41,889
バーコードサプライ	46	119,984	45	125,796	42	127,131	42	116,963	40	124,623	41	126,271
RFID	69	33,928	68	35,758	66	39,073	70	36,037	72	36,433	72	39,594
バイオメトリクス	12	2,482	12	3,355	12	3,875	11	2,784	12	2,573	12	3,063
ソフトウェア	39	4,981	37	5,199	41	6,787	34	4,827	37	7,181	37	7,965
合計		239,098		245,956		252,550		230,970		242,901		253,475
		100.2		102.9		102.7		91.5		105.2		104.4

上段 = 出荷金額(百万円)
下段 = 対前年比(%)



2022年度 自動認識技術者 資格認定講習・試験

多くの産業分野や私たちの生活で利用されている「自動認識技術」に関する知識を、提供する人・利用する人に正しく学び習得してもらえるための技術者認定資格です。

自動認識基本技術者資格認定講習・試験	講習: オンライン形式 (再視聴あり)	試験: 集合形式 (全国複数会場)
RFID専門技術者資格認定資格講習・試験	講習: 集合形式 (JAISA会議室)	試験: 集合形式 (JAISA会議室)

*今年度から、自動認識基本技術者の資格認定講習・試験の実施方法を変更します。RFID専門技術者資格認定講習・試験は従来通りの方法で実施します。



自動認識技術者資格認定講習・試験 概要

■目的

自動認識技術を活用したシステムの導入・改善などの技術的ニーズに、的確・迅速な対応ができるよう、エンジニアリング業務、システム業務、販売・販売支援業務に従事する自動認識技術者を育成・拡大するために、一般社団法人日本自動認識システム協会が講習・試験を実施し、合格者の認定・登録を行うものです。

■資格等級と対象者

●自動認識基本技術者資格
自動認識技術の基本となる「バーコード・二次元シンボル」、「RFID」、「生体認証」、「標準化」の4科目の基本となる知識を習得します。対象は、自動認識システムに携わる企業の新入社員・中堅社員、学生、一般社会人などです。

●自動認識専門技術者資格
「バーコード・二次元シンボル」、「RFID」の各科目の専門的な知識を習得します。対象は、「自動認識基本技術者資格」を取得されており、さらに専門的な知識の習得を目指す方です。

■資格取得者の認定

資格取得者が自動認識技術に関する知識を習得していることを証明するものとして、当協会が登録証、登録証明書を発行します。また、資格取得者は当協会のWebサイトで氏名を公表しています。
*希望により非公表も有。



■講習・試験日程

●第48回自動認識基本技術者資格認定講習・試験					
	オンライン講習	オンライン講習(再視聴)	試験(会場集合)		
日程	7月5日(火)	7月6日(水)	7月7日(木)	7月8日(金)	7月9日(土)
受講科目	標準化	バーコード	標準化	バーコード	東京、大阪、仙台 (受験4科目)
科目	RFID	バイオメトリクス	RFID	バイオメトリクス	
●第49回自動認識基本技術者資格認定講習・試験					
	オンライン講習	オンライン講習(再視聴)	試験(会場集合)		
日程	11月15日(火)	11月16日(水)	11月17日(木)	11月18日(金)	11月19日(土)
受講科目	標準化	バーコード	標準化	バーコード	東京、名古屋、福岡 (受験4科目)
科目	RFID	バイオメトリクス	RFID	バイオメトリクス	
●第17回RFID専門技術者資格認定講習・試験					
	講習(会場集合)		試験(会場集合)		
日程	2023年2月2日(木)~4日(土) 3日間		2023年2月18日(土)		

※会場は JAISA 会議室 (東京千代田区)

●受講・受験料 (税込)	
自動認識基本技術者資格認定講習・試験	RFID専門技術者資格認定講習・試験
協会会員 30,000円 (テキスト不要の方 24,000円)	協会会員 40,000円
非協会会員 50,000円 (テキスト不要の方 44,000円)	非協会会員 60,000円
学生 15,000円	講習なしで受験の場合 10,000円
	受験だけの前年度 20,000円 (1回限り)

■お問い合わせ
(一社) 日本自動認識システム協会 事務局
Phone 03-5825-6651 license@jaisa.or.jp
www.jaisa.or.jp



未来のAUTO-IDプロジェクトとは

JAISAでは自動認識市場拡大のための新たな情報発信の取り組みとして、「未来のAUTO-ID」プロジェクトを2019年度から進めています。プロジェクトの活動目的は、自動認識技術に関係する事業者（ユーザ、メーカ、Sier）に対して、自動認識技術の活用事例の具体化を体現できる展示を提供することで、自動認識システムの認知度を向上させ、市場の発展、拡大に貢献することです。

未来のAUTO-IDプロジェクトでは、会員企業から参加いただく企画委員による活動が中心となり、プロジェクト企画委員会、幹事会のもと、自動認識総合展において、企画展示を行ってきました。

自動認識総合展 主催者企画の展示

プロジェクト活動の初年度である2019年は、「自動認識総合展」（東京・大阪）で「自動認識で変わる未来」をテーマに、『みせなか』『いえなか』『サプライチェーン』をシーンごとに、ロボットや位置情報、ICタグ等を活用した生活や流通における最新の自動認識ソリューションで、近未来の生活環境や利便性を来場者に体感いただきました。



第22回 自動認識総合展テーマ企画
「未来をつなぐAUTO-ID / 自動認識で変わる未来」

2020年度から昨年度にかけては、企画展示のテーマを「SDGsを支える自動認識」として、出展協力各社の展示内容をSDGsの目標と紐づけた5つのゾーンで展開しました。出展された事例の多くがコロナ禍で変わる日常を反映したものとなりました。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



第23回 自動認識総合展テーマ展示
「未来をつなぐAUTO-ID / SDGsを支える自動認識」

新企画委員によるグループ活動

未来のAUTO-IDプロジェクトの活動は昨年7月、新たに企画委員を参加企業の代表若手社員が中心となって構成し、新しい活動テーマを企画するグループ活動を開始しました。

グループ 1

テーマ：新たな開発を目指す
タイトル：JAISAと『つなぐ』未来の構築
企画概要：「つなぐ」プラットフォームの構築。
既存のユニーク番号をWeb上で附番し、幅広い企業・団体が活用できる仕組み。

グループ 2

テーマ：『場』をつくる
タイトル：出前教室・オンライン授業
企画概要：自動認識技術や事例などの紹介を若い世代を対象として、デモや動画を交え、出前授業やオンライン授業を実施。

グループ 3

テーマ：新しい情報発信
タイトル：移動・体験型ショールーム
企画概要：自動認識技術を体験できるショールーム。低年齢層を対象として、幼少期に楽しく技術に触れながら基礎概念を身に付ける。

グループ 4

テーマ：次世代育成
タイトル：AUTO-ID MeetUP

2021年度の未来のAUTO-IDプロジェクトのグループ4が企画した「AUTO-ID MeetUP」が実施されました。グループ4は『次世代育成』をテーマとして、若者（特に大学生）に自動認識を知ってもらう機会を設けるための活動を提案しました。

AUTO-ID MeetUP 開催

2022年3月23日、大学生を対象に『非接触のスマート技術RFIDを知ろう！』と題したセミナー&見学会を（株）サトー、東芝テック（株）の協力で開催、春休み期間中にもかかわらず、会場・オンラインあわせて18名の方々が参加しました。

AUTO-ID MeetUPは、①自動認識技術に触れて、知って ②業界に興味を持ってもらう ③社会人となってからユーザとしてより多く利用してもらう ④将来の自動認識基本技術者の有資格者の増加につなげる、などを目的として企画されたものです。



プログラム1

RFIDはじめての1歩（イントロダクション）

- 講師 JAISA 研究開発センター 小西 将之 氏
- 内容 自動認識とは。RFIDの技術的特徴と運用。市場や用途について。

プログラム2

見えない所でも活躍するRFID ～物流倉庫編～

- 講師 東芝テック（株）商品企画開発統括部 梁瀬 蓉平 氏
- 内容 アパレル物流の課題をRFIDが解決！RFIDのアパレル業界の物流センターでの活用事例。現場の課題や導入の目的と背景、導入効果など、業務の正確性と効率向上を解説。

プログラム3

世の中を便利にするRFIDの現在と未来

- 講師 （株）サトー 営業本部 田村 信幸 氏
- 内容 身近で具体的なRFIDの導入事例と活用シーン。当日の参加者だけに話す『モノが自ら状態を発信する』今から少し先の未来。

プログラム4

ショールーム体験ツアー 於：サトーショールーム

- 内容 RFラベルの発行、読取検品・棚卸デモ、インレットや特殊用途のRFタグの紹介など。

今回が1回目となる「AUTO-ID MeetUP」に参加した学生たちの所属する大学とアンケートの一部を紹介します。



■ 所属する大学と学部（申込順、同大学から複数参加有）

<会場参加>

- ・御茶ノ水女子大学 理工学部 ・東京大学 工学部
- ・慶應義塾大学 総合政策学部 ・工学院大学 情報学部
- ・中央大学 総合政策学部 ・日本大学 理工学部

<オンライン参加>

- ・東京海洋大学 海洋工学部 ・東京大学 工学部
- ・神奈川工科大学 工学研究科 ・大阪経済大学 経済学部
- ・関西大学 社会学部 ・関西大学 経済学部
- ・立命館大学 経営学部 ・愛知淑徳大学 ビジネス学部
- ・龍谷大学 法学部 ・龍谷大学 社会学部

■ アンケート（抜粋）

ご参加の目的は？

- ・就活を見据えた社会勉強。
- ・RFIDの無線技術に興味がある。
- ・RFIDの実際の活用事例や今後の展開を知りたかった。
- ・物流業界の最先端技術が今後の研究に役立つと思った。
- ・直観。自動認識の重要性をなんとなく感じていたため。
- ・就活の軸に現場の業務効率化を掲げており、RFIDを以前から知っていたため。
- ・4月から自動認識業界で働くのでそのための事前学習。
- ・物流の業務と課題解決にも興味を持ち志望した。

参加したご感想は？

- ・興味のある分野の実際の製品を見て、話ができてよかった。
- ・RFタグで時系列データが取れる点に可能性を感じた。
- ・複数一括読取、露出しなくても読める利点が参考になった。
- ・RFIDの基礎知識から活用事例まで復習することができた。
- ・病院でも非接触読取の活用があることに関心を持った。
- ・実際の製品を手にとれてよかった。想像以上に広い分野で使われていること、可能性が無限大であると思う。
- ・RFIDの説明はとても面白く、色々なことを勉強した。

自動認識の基礎知識セミナーについて

自動認識技術は、産業界に留まることなく私たちの日常生活にも不可欠となっており、昨今の感染症拡大防止対策期間にあっても非接触、無人化、自動化のソリューションが次々と開発されるなど、新たな生活様式の基盤となる技術として、今後も発展することが期待されています。

自動認識の基礎知識セミナーでは、一次元・二次元シンボルやRFID、バイオメトリクスなどの基礎知識を、図式や事例を交えてわかりやすく解説します。

- 講座：バーコード、RFID、バイオメトリクス
- 対象：どなたでもご参加いただけます。特に、新入社員・新任担当者に最適です。
- URL：https://www.jaisa.or.jp/seminar.php



開催日程と概要

- 開催日：2022年9月30日、10月21日、12月9日（4月～6月は終了）
- 開催携帯：集合形式、またはオンラインでも受講可能
- 開催時間：10:00～17:30（昼食、休憩含む）
- 開催場所：（一社）日本自動認識システム協会
- 講義内容：バーコード、RFID、バイオメトリクスの基礎的な知識、活用方法、応用事例、ほか
- 募集人数：40名（先着申込順）
- 受講費用：一般 22,000円（税込）
会員 11,000円（税込）

講師派遣による基礎知識セミナー

個別の企業やグループなどに対して、自動認識の基礎知識セミナーを開催します。

*ご指定の場所で実施、またはオンラインも可能
バーコード、RFID、バイオメトリクスの各科目を1講座として、1回の派遣につき2講座以上でお申し込みください。講座の組み合わせはご要望に沿って実施します。

*RFIDの実演に関しては、免許の関係により別途ご相談します。

*セミナー会場とプロジェクターの準備をお願いします。

- 実施費用：一般 1講座 66,000円（税込）
会員 1講座 33,000円（税込）

- 交通費等：講師交通費、宿泊費、日当等は講師人数分を別途ご負担願います。（100km圏内は除く）

◆セミナーの概要（資料抜粋）

1 バーコードの基礎知識

<講義時間>1時間45分（予定）

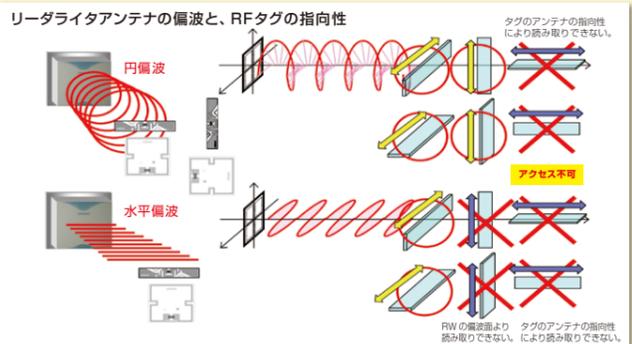
- ・標準化とは
- ・自動認識とは
- ・バーコードとは
- ・バーコードの歴史
- ・バーコードで何が出来る？
- ・バーコードのデータ
- ・ユニークIDとデータベース
- ・バーコードの種類と特徴
- ・バーコードの印字品質
- ・どのようにして読んでいるの



2 RFIDの基礎知識

<講義時間>2時間30分（予定）

- ・RFIDとは
- ・RFIDで何が出来る？
- ・RFIDの種類と特徴
- ・電波法って何？
- ・RFIDの標準化とは
- ・UHF帯RFIDの特徴
- ・13.56MHz帯RFIDの特徴
- ・コンビニやアパレルの事例
- ・機器を動かしてみよう



3 バイオメトリクスの基礎知識

<講義時間>1時間45分（予定）

- ・バイオメトリクス（生体認証）とは
- ・バイオメトリクスの種類と特徴
- ・どのように使われているの？
- ・認証の仕組み
- ・バイオメトリクスの標準化
- ・使用するうえでの留意点
- ・バイオメトリクスに関わる標準化
- ・最近のトピックス

バイオメトリクス（生体認証）ってなに？

- バイオメトリクス（生体認証）を使ったことありますか？
- どのくらい使われていると思いますか？

身体的特徴を応用

AUTO-ID & COMMUNICATION EXPO

第20回 自動認識総合展

2023.2.21^{TUE} - 22^{WED}

10:00 - 17:00

大阪

マイドームおおさか 1F展示場



A BRIGHTER FUTURE WITH AUTO-ID

未来をつなぐ **AUTO-ID**

— SDGsとDXに貢献 —



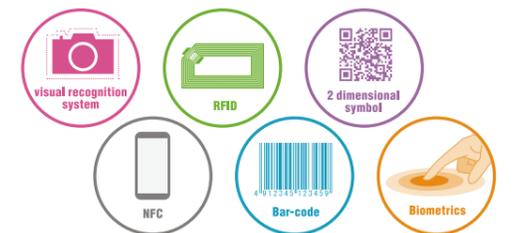
主催：一般社団法人日本自動認識システム協会

併催事業：BT Space 自動認識セミナー

www.autoid-expo.com



公式サイトはこちら



展示会事務局（株）シー・エヌ・ティ

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-24-3 FORECAST神田須田町4F TEL. 03-5297-8855 FAX. 03-5294-0909 expo-osaka@autoid-expo.com



会報 JAISA 第71号 発行所：一般社団法人日本自動認識システム協会 発行人：専務理事 古村浩志
事務局：〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-9-5 FKビル7F TEL: 03-5825-6651 FAX: 03-5825-6653 https://www.jaisa.or.jp/